



名古屋市の教育改革の取組を紹介!



NAGOYA School Innovation

ナゴヤ・スクール・イノベーション

名古屋からはじまる
子ども一人一人のための
新しい学びづくり

名古屋市教育委員会

これから求められる教育とは

人生100年時代やSociety5.0（ソサエティ5.0）という新たな時代を迎えようとする現代社会では、グローバル化や少子高齢化、ICT化が急速に進展し、私たちの暮らしや価値観などがごく短期間に大きく様変わりしています。また、未来社会に向けて世界が国際協調により取り組むべき社会課題も数多く存在しています。こうした課題を解決するためにSDGs達成に向けた取組なども、世界中で活発になってきています。

このような現代と未来を生きる子どもたちには、激しい社会の変化を前向きに受け止め、先の見通せない状況の中でも、新たな挑戦をしたり自分を高めたりしながら、たくましくなやかに変化や逆境を乗り越え、よりよく自らの人生をきり拓いていくことが期待されます。

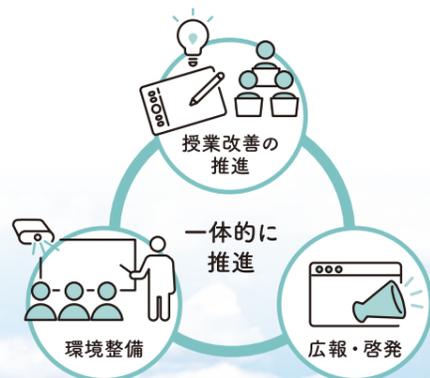
そのためには、子どもたちが学校という一つの社会を共に生きる中で、自分のよさや可能性に気づくとともに、自分で課題を見つけて学習を進めたり、多様な立場の人々と協働しながら新たな価値を生み出したりできる資質・能力を育めるように、学校教育をイノベーションしていくことが求められています。



NAGOYA School Innovationとは

「NAGOYA School Innovation（ナゴヤ・スクール・イノベーション）」では、社会が劇的に変化の中で、自らの可能性を最大限に伸ばし、人生をたくましく生きていく「なごやっ子」を育成するために、学校がすべての子どもにとってよりよい成長の機会となるよう、子ども一人一人の興味・関心や能力、進度に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を推進しています。

名古屋市教育委員会では、NAGOYA School Innovation（ナゴヤ・スクール・イノベーション）を「授業改善の推進」、「環境整備」、「広報・啓発」の三つの観点から一体的に推進しています。



教育長からのメッセージ



名古屋市教育委員会 教育長
坪田 知広
Tomohiro Tsubota

子どもたちを取り巻く社会の状況は、目まぐるしく刻一刻と変化しています。予測困難な将来を生き抜いていく子どもたちに対して、学校教育には、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越えること、そして豊かな人生をきり拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められます。

こうしたなか、名古屋市教育委員会では、幼稚園から高等学校まですべての校種において、「ナゴヤ・スクール・イノベーション」を通して、子どもたちが、自ら主体的に課題を設定し、多様な他者と協働しながら学びを進め、振り返りながら責任ある行動が取れる力を身につけることができるよう、子ども主体の授業への改善を進めています。

400校を超える市立学校園を挙げて進めているこの取組は、我が国の教育改革を推進するエンジンの役割を果たしていくものと考えています。

アドバイザーからのメッセージ



哲学者・教育学者
熊本大学大学院 教育学研究科
准教授
苫野 一徳
Ittoku Tomano

これまでの150年間、日本の学校教育は、「みんなで同じことを、同じペースで、同質性の高い学年学級制の中で、できあいの問いと答えを勉強する」システムとして続いてきました。落ちこぼれや不登校を始めとする、様々な問題の最大の理由はこのシステムにあります。

しかし、そこからの大きな転換が、全国的に起こり始めています。名古屋市は、自治体規模でその転換に取り組むフロントランナーです。転換の一つの軸は、私なりに言えば「学びの個別化・協同化・プロジェクト化の融合」です。子どもたちが、自分のペースで、自分に合った学び方で、「ゆるやかな協同性」に支えられながら学び合う。カリキュラムの中核は、自分たちなりの深い問いを探究する、様々なワクワクできる“プロジェクト”です。

名古屋からどんな実践が登場し、また全国に波及していくか。とても楽しみにしています。そして微力ながら、全力で応援したいと考えています。



学びの改革に取り組む 7つのプロジェクト 学校園MAP



プロジェクト型
学習実践校 2022年度～

1a 矢田小学校

プロジェクト型
学習実践校 2022年度～

1b 砂田橋小学校

プロジェクト型
学習実践校 2022年度～

1c 矢田中学校

マッチング
プロジェクト 2021年度～

7a 緑高等学校

マッチング
プロジェクト 2021年度～

7b 北高等学校

マッチング
プロジェクト 2021年度～

2a 第一幼稚園

マッチング
プロジェクト 2021年度～

2b 第三幼稚園

マッチング
プロジェクト 2021年度～

7c 富田高等学校

マッチング
プロジェクト 2021年度～

7d 山田高等学校

マッチング
プロジェクト 2021年度～

2c 吹上幼稚園

幼稚園
5園合同
プロジェクト

マッチング
プロジェクト 2021年度～

5 前津中学校

マッチング
プロジェクト 2021年度～

6 八幡中学校

マッチング
プロジェクト 2021年度～

2d 荒子幼稚園

マッチング
プロジェクト 2021年度～

2e 鳴子幼稚園

マッチング
プロジェクト 2021年度～

3 山吹小学校

小学校
2校合同
プロジェクト

マッチング
プロジェクト 2021年度～

4a 稲永小学校

マッチング
プロジェクト 2021年度～

4b 野跡小学校

学校園の
詳しい取組は
コチラから▼

プロジェクト型学習実践校とは

個別最適な学びを推進するため、2019年度より、矢田小学校は、子ども自身がわくわくする課題を設定し、課題解決のための計画を立て、探究し、成果を発表する学びである「プロジェクト型学習」の実践に取り組み、子ども主体の学びを実現してきました。2022年度より、矢田小学校によるプロジェクト型学習の実践を、中学校ブロックを同じくする砂田橋小学校と矢田中学校へ広げ、プロジェクト型学習実践校として中学校ブロック連携、小中連携の実践を進めています。

マッチングプロジェクトとは

2021年4月から、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の各校種において、学校園がめざす子ども像の実現に向けた課題・ニーズと、民間事業者のもつ知識・技術・ノウハウ等の力をマッチングさせて、官民連携で学びの転換を進めるプロジェクトです。



マッチング
プロジェクト

課題の解消 & ニーズの実現

- ICT企業
- EdTechベンチャー
- オルタナティブ教育
- キャリアコンサルタント
- 空間デザイン企業
- 教育研究機関

- 子どもの多様性へ対応
- 学習者中心の学び
- 教育DX
- 働き方改革
- 教員の意識改革

名古屋市立矢田小学校

Nagoya City YADA Elementary School

実践テーマ

自分で考え、人と学び合い、わくわくしながら進めよう！
— プロジェクト型学習とプロジェクト型学習の要素を取り入れた教科における学びの個別化・協働化・プロジェクト化 —

1 自分の問いを探究する

児童がわくわくする問いを自ら立て、自分なりの見通しをもって自分の力でやりとげる探究的な学び（PBL：Project Based Learning）に取り組んでいます。児童は、自分の問いからプロジェクトのゴールを設定し、わくわくする気持ちを原動力に、試行錯誤しながらゴールに向けて学習を進めます。



実体験や本物との出会い

児童がわくわくする自分事の問題を立てられるように、実体験や本物との出会いを大切にしています。そのために、特に「ふれる」活動では、積極的に外部の方々と連携しています。



車椅子の体験



聴覚障害体験



視覚障害体験

2 プロジェクト型学習の要素を効果的に取り入れた教科学習

各教科の学習においても、プロジェクト型学習の要素を取り入れています。その時の学習内容やめあてを自己選択し、自分にあった方法やペースで、必要に応じて考えを交流しながら学び、振り返りを行う、という流れを教科学習の中に取り入れて取り組んでいます。

複線型の授業

児童が自己選択して、自分に合った方法やペースで学ぶ複線型の授業も行っています（例えば、教員からミニ講義を受ける、自分で教科書を使って学ぶ、自分でタブレットを使って学ぶ）。

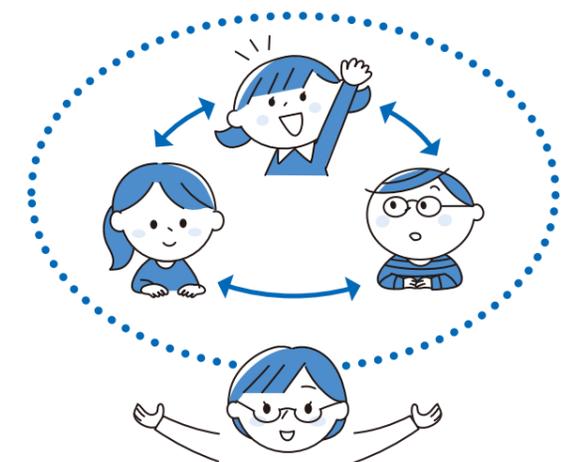


3 子どもが主役

学びの主役は子どもです。教員が手取り足取り児童に教え、失敗しないように導くのではなく、児童の自己選択・自己決定を尊重し、時には失敗も経験しながら自分の力で学びとっていく過程を重視しています。

ファシリテーター

ファシリテーションとは、ものごとを活性化したり整理したりと、活動のプロセスをサポートすることです。子ども主体の学びでは、教員はファシリテーターとしてかかわります。



● 主な事業者

日本PBL研究所
Institute of Project-Based Learning in Japan

名古屋市立砂田橋小学校

Nagoya City SUNADABASHI Elementary School

「自分で考え、やってみよう」をテーマに、子どもの自己選択・自己決定に基づいた活動を重視し、仲間と協力しながら、自分の問いを解決していく子どもの育成を目指しています。



名古屋市立矢田中学校

Nagoya City YADA Junior High School

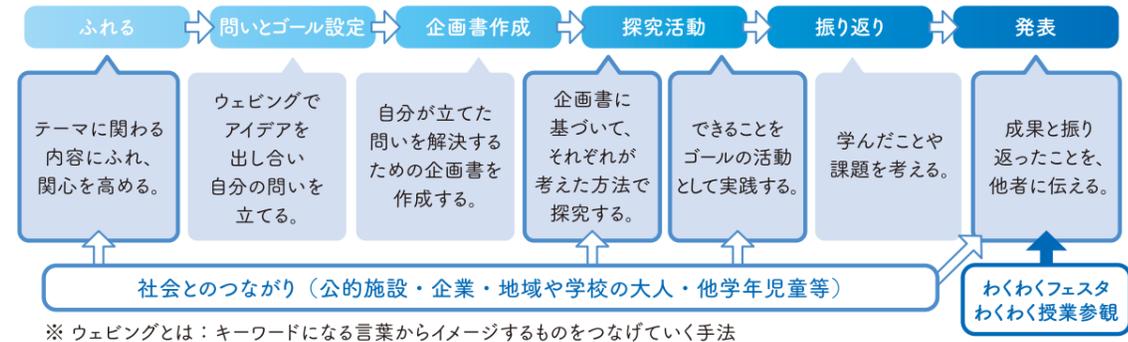
プロジェクト型学習として、1年生は「学区を住みよくするプロジェクト（福祉・防犯・交通・街づくりを視点に）」、2年生は「社会貢献のプロジェクト（SDGsを視点に）」に取り組んでいます。主体的・協働的に学びを進めることにより、自己選択・自己決定する力、課題解決を図る力、自分のよさを発揮する力の育成を図り、「自分らしく生きる力の育成」を目指します。



探究的な学び (PBL) を重視した総合的な学習・生活科

※ PBL (Project Based Learning) は、子ども自身が課題を設定し、課題解決のための計画を立て、探究し、成果を発表する探究的な学びです。

● 基本的な学習の流れ



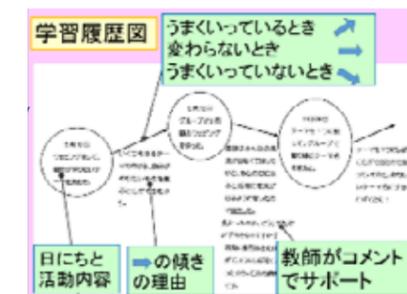
● わくわく学習でつきたい力（矢田小学校の例）

つきたい力	具体的な姿
わくわく発見力	<ul style="list-style-type: none"> 生活や学習の中から疑問を発見することができる。 疑問を解決することにわくわくすることができる。
わくわく解決プランニング力	<ul style="list-style-type: none"> 解決のための見通しやゴールをもつことができる。 解決のための計画を立てることができる。
わくわく探究力	<ul style="list-style-type: none"> 情報を活用することができる。 必要な情報を集める（低学年）分類・整理する（中学年）情報から、自分なりの考えをもつ（高学年） 課題解決に粘り強く取り組むことができる。
伝えたいことを表現する力	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを相手にわかりやすく伝えることができる。 自分の考えを適切な方法で表現することができる。
他者と関わる力	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協力して課題を解決することができる。 他者の思いや考えを受け止めることができる。 他の考えを理解する（低学年）比較しながら聞く（中学年）異なる考えを大切にしながら他者と関わる（高学年）
自己を見つめる力	<ul style="list-style-type: none"> 学びを振り返りながら、ゴールに向かうことができる。 学んだことを生活や学習に活かすことができる。 社会・地域の一員として考え、行動することができる。

自己選択・自己決定しながら自走する子どもに、教師はファシリテーターやアドバイザーの役割を担い、伴走します。



子どもが自走するための手引き「ログブック」



教師が伴走する際に、手がかりとする「学習履歴図」（子どもが記録していく、教師がコメントを入れる。）

名古屋市立幼稚園

5園共同のプロジェクト

名古屋市立第一幼稚園 名古屋市立第三幼稚園 名古屋市立吹上幼稚園
 名古屋市立荒子幼稚園 名古屋市立鳴子幼稚園

実践テーマ

- 園児が自由な発想で様々な遊びを創出することや自分の学びを振り返ることにつながる環境づくり
- 園児一人一人の思いや体験を記録し、子ども・保護者・教員が情報共有して子どもを育むコミュニケーションづくり

1 ICTで 深まる・広がる遊び!

園児の思いは、自由に遊びを進める中で「こんな風にしたい」と広がっていきます。タブレット（検索機能、アプリなど）を道具の一つとして使えるようにしたことで、色々なことに気付いたり取り入れたりして、園児が思いを実現させていく過程での学びが充実していきます。



自分たちが描いた絵をプロジェクターで投影して忍者ごっこ



怪獣とロボットが戦う様子を映画作成プロジェクターで映画鑑賞



工作したいものを調べる

シャチってどんな生き物だろう



野菜の成長をタブレットで記録

2 園児の育ちを 分かち合う

園児の活動を写真や動画等で記録し、教員同士で共有したり、保護者の方のスマートフォン等に配信したりしています。園児の育ちを分かち合い、共に支えるためのよりよいコミュニケーションづくりを進めています。



保育ドキュメンテーション

園児の活動を、写真や動画、文字などで継続的に記録しています。園児が自分の成長に気づいたり、活動を深めたりすることにつながっています。また教員も、その時々では見逃しがちな園児の視線、表情などを記録で確認でき、一人一人の深い見取りにつながっています。



3 園業務の デジタル化

園業務の省力化を進めるために、登降園管理や欠席連絡などにICTを活用しています。教員が一人一人の園児に向き合ったり、保護者の方とのコミュニケーションを図ったりするための時間確保につながっています。

保護者の方の声

朝は一日の中で一番忙しい時間です。欠席や遅刻の連絡がアプリで簡単に行えるようになり、とても助かっています。



保護者からの連絡



園業務においてもICTの活用が進んでいます

● 主な事業者



名古屋市立山吹小学校

Nagoya City YAMABUKI Elementary School

実践テーマ

子ども一人一人の個別の発達に焦点をあて、違いから豊かに学び合う環境の中で、子どもたちが自らのペースで、自らの興味・関心や能力、進度に応じて、自立して学ぶことを最大限に尊重する学びづくり

1 自分のペースで学ぶ

児童が自ら学習計画を立て、自分にあったペースや方法で学ぶ時間（週に5～10時間程度）を設けて、児童が主体的に学習を進めています（山吹セレクトタイム）。



サークル対話

円になり、児童がお互いに顔を見合わせながら考えを交流します。一人一人が尊重される大切さを学び、児童が安心して学べる環境が育まれていきます。



学ぶ場所も自分で選ぶ

自分の時間割

児童は、各教科の単元進度表に基づき、自分で1週間の時間割を考えます。単元進度表には、教材、ゴール、探究などの幅広い選択肢が掲載されています。

時間	学習目標	教材	ゴール	探究	備考
①	【インストラクション】 - じゃんけん - 学習の楽しさをもとめよう。	P2-P3			10/
②	- 円の中心と半径の長さ、および、円の中心、半径について考えよう。 - 半径を定めて円をかこう。 - 直径および半径と半円の関係を確かめよう。	P4-P5			10/
③	【インストラクション】 - 長さを書き取る道具としてのコンパスの使い方をマスターしよう。	P6-P7			10/
④	【インストラクション】 - 長さを書き取る道具としてのコンパスの使い方をマスターしよう。	P8-P9			10/

単元	20	21	22	23	24
1時間目	算数	算数	算数	算数	算数
2時間目	算数	算数	算数	算数	算数
3時間目	算数	算数	算数	算数	算数
4時間目	算数	算数	算数	算数	算数

黄色の欄は、自分で1週間の学びを計画！

2 異年齢で学ぶ

3学年混合の異学年グループ（低学年1～3年生、高学年4～6年生）で、役割分担したり、お互いの考えや意見を交流・共有したりしながら、問題解決型の学習に取り組んでいます（ふれあい活動）。



いろいろな立場を体験

3学年混合の活動では、児童は教えられたり、助けたりする立場などを繰り返し体験します。その中から、児童は他者の理解やコミュニケーションの方法を学んでいきます。



3 子どもの学びを支える

児童の多様な学びを支えるため、遊びの活動から協働する力を育んだり、掲示物を通して学びにおける大事な価値観を共有したりしています。教師は児童が自ら学習を進められるよう支援します。

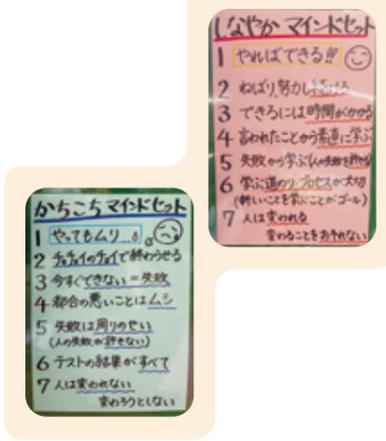
遊びから学ぶ

活動の中には、ゲームやアクティビティの時間も設けています。遊びから、お互いの個性を理解したり、協働する力を育んだりしています。



様々な掲示物

教室の壁には、「マインドセット」や「学ぶ技能」を示す掲示物が貼られ、学びにおける大事な価値観を子どもたちと共有するとともに、授業の始まりには「今日は何番を大事にしますか？その理由は？」、授業の終わりには「今日のあなたは何点ですか？」などと先生方が声掛けをしています。



教員の役割

教員は、児童が自ら学習を進められるように環境を整えます。また、児童の様子を丁寧に見取り、学習の進度やつまづきを把握して、一人一人に適切な支援を行います。

● 主な事業者



名古屋市立稲永小学校

Nagoya City INAEI Elementary School

名古屋市立野跡小学校

Nagoya City NOSEKI Elementary School

中学校を同じくする小学校 2 校の合同プロジェクト

実践テーマ

子どもたち一人一人が、人と豊かにつながり、
できる喜び・楽しさを実感することができる学びづくり

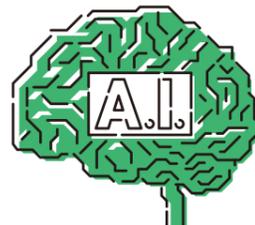
1 みんながわかる、 楽しい授業

算数科の授業を軸として、全員で進める一斉の
学習と、デジタルドリルを活用して個人で進める
個別最適な学習とを一時間の中でバランス良く
組み合わせ、児童の「できる!」気持ちを引き出
す授業づくりに取り組んでいます。



個別最適な学びと AI型デジタルドリル

AI型デジタルドリルは、児童の解答を
分析し、理解度（誤答の原因）を判断
して次の問題を出題します。
児童は自分の習熟度やつま
ずきに応じて最適な問題に
取り組みます。



一人ひとりへ適切なアドバイスをする

2 教室が つながる



稲永小学校から

2校間の教室がオンラインでつながる遠隔
合同授業を行っています。児童がお互い
に考えを伝え合ったり、認め合ったりする機
会が増えるとともに、学習内容の深まりや
広がりにもつながり、規模の小さい学校で
は得難い経験がICTで実現しています。



野跡小学校から



子ども同士がつながる

2校間では児童のつながりも深まっています。中学校を同じくす
る児童同士の交流は、今後中学校へ進学し、新しい環境での
学習や生活へ移行する上でとても意義があると考えています。



教員同士もつながる

遠隔合同授業では、教員同士もお互いの専門性を生かした
授業を見合うことにつながり、切磋琢磨する機会が生まれて
います。

3 言語の バリアフリー

母語が日本語ではない児童も数多く在籍しています。
児童の日本語のレベルに合わせてオンラインの語学
支援に取り組んでいます。



● 主な事業者

TOPPAN

特定非営利活動法人
青少年自立援助センター
Youth Support Center

名古屋市立前津中学校

Nagoya City MAEZU Junior High School

実践テーマ

- わくわくする好奇心をベースに、生徒一人一人が自分らしさを理解し、自分らしく生きていくための未来につながる体験ができる学びづくり
- 互いの存在や違いを認め合い、それぞれが自分らしさを安心して表現できる居場所づくり

1 地域社会を探究する

地域社会をフィールドとして、3学年合同のチームで探究学習を進めています。生徒は、地域の企業・団体が社会に生み出す価値を体験的に学びながら、その新たな可能性を考え、地域をよりよくするためのアイデアを協働して創り上げていきます。

活動のルール

「発見を楽しもう」「どんな考えでも言葉にしてみよう」「たくさん試してみよう」が生徒たちのルール。3学年合同の活動にあたって、生徒が安心して学びに向かうための仕掛けであり、自らの思いを表現することにつながっています。



地域とつくる学び

国際比較※によれば、日本の若者は「自分で国や社会を変えられる」と思っている割合が低いとされています。学校教育を通じて、持続可能な社会の創り手を育むためには、地域と学校とが連携し、子どもの学びをつくるのが大切です。

※参考：日本財団「18歳意識調査」第46回テーマ「国や社会に対する意識」



学びのサポーター

今年度の探究学習は、下の地域企業・団体の方々に支えられています。



2 自分の生き方を考える

国家資格をもつキャリアコンサルタントが常駐し、生徒が自分自身の生き方を考えたり、学校での学びと未来のありたい姿とを結びつけたりするためのサポートを行っています。

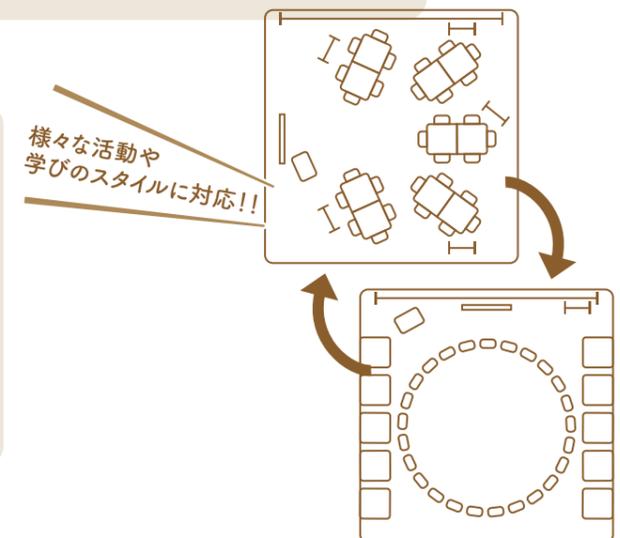
ライフキャリアとは？

仕事だけでなく、家庭生活、地域活動、趣味など、生涯にわたる様々な役割や経験の積み重ねのことをいいます。進学や社会に出る前の早い段階から、自分らしい豊かなライフキャリアをデザインする力を育てていくことが重要だと考えています。



3 柔軟性のある空間の活用

生徒の主体的な活動を支援するため、柔軟性のある空間を活用しています。多様な学習内容・学習形態を可能とし、生徒のもつ豊かな創造性を発揮できるようにしています。休み時間や放課後の居場所にもなり、快適な学校生活や生徒の交流促進にもつながっています。



● 主な事業者



名古屋市立八幡中学校

Nagoya City YAWATA Junior High School

実践テーマ

- 生徒の学び方と教員の働き方を楽しくする、ICTを最大限に生かした学校づくり
- 多様な仲間と協働し、自分たちの手で学校を楽しくする、生徒が参画する学校づくり

1 生徒の 学び方改革

ICTを効果的に活用して、生徒が自分に合った進捗で学習を進めたり、学習状況を振り返ったりしています。生徒の「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」といった観点を重視した授業づくりを進めています。



思考力・判断力・表現力 テストの取組

これからの時代を担う生徒は、知識・技能を身につけるだけでなく、現実的な状況の中でそれらを使いこなす能力を身につける必要があります。そのため、「思考力・判断力・表現力」を伸ばす評価手法であるパフォーマンス評価型のテストに取り組んでいます。



生徒が解答をタブレットに録音する様子

2 教員の働き方改革

ICTを効果的に活用して、テスト採点業務の効率化や、生徒の学習状況の可視化などを行っています。教員が生徒一人一人に向き合うための時間を生み出し、生徒への適切な支援につなげています。



1月からのローテーション表

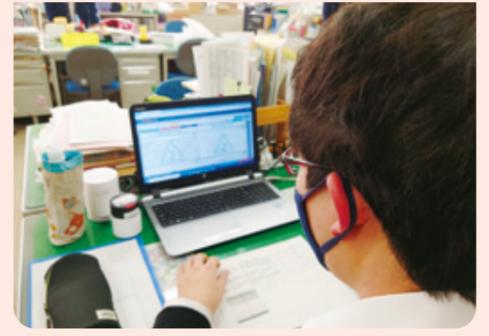
	1/18~	1/16~	1/23~	1/20~	2/6~
A組	日比	加藤	高橋	土屋	牧
B組	土屋	牧	日比	加藤	高橋
C組	加藤	高橋	土屋	牧	日比

2月からのローテーション表

	2/13~	2/20~	2/27~	3/6~	3/13~	3/20~
A組	日比	高橋	加藤	土屋	牧	高橋
B組	土屋	日比	牧	加藤	高橋	日比
C組	加藤	牧	土屋	高橋	日比	加藤



テスト採点業務の効率化



担任のローテーション制を試行導入し、学級の垣根なく先生同士の情報共有が行われています

3 生徒参画の 学校改革

学校行事の企画運営など、生徒が学校づくりに参画できる機会を増やしています。教員も生徒も同じ学校の創り手と位置づけて学校改革を進めています。

学校そのものを学びに生かす

学校は、生徒が社会に出るための準備をする場所であり、社会的自立を育てていく重要なフィールドです。そのため、生徒が自分たちで考え、合意形成し、実行するという活動を実践できるように、学校そのものを生徒の学びのリソースに位置づけています。



ルワンダとの国際交流



生徒の企画が実現した「高等学校出前授業」



生徒主体で取り組んだeスポーツ大会

● 主な事業者 **DNP**

名古屋市立高等学校

4校合同のプロジェクト

名古屋市立緑高等学校 名古屋市立北高等学校
 名古屋市立富田高等学校 名古屋市立山田高等学校

実践テーマ

生涯にわたって能動的に学び続ける生徒の育成

1 一人1台 タブレットの活用

全ての高等学校に、一人1台タブレットを導入しました。協働学習ツール、デジタルドリル等の学習アプリを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組んでいます。



情報通信の授業（富田高校）



タブレットを活用した学び合い（緑高校）



教材提示の工夫（緑高校）



音楽の授業におけるICTの活用（富田高校）



タブレットを活用した発表活動（富田高校）



動画配信による遠隔授業（山田高校）



AI型教材を用いたグループワーク（北高校）

高等学校におけるICT活用は？

各校では、学習に活用できる様々なアプリケーションを試用利用して、めざす教育活動に向けた効果的なICT活用の検討を進めています。



2 垣根を越えた 学び合い

高等学校では、それぞれの学校が生徒に合わせて独自の教育課程を編成しています。学びのあり方が変革期を迎える中で、効果的に授業改善を進めていくため、ICTを活用して学校間で教育活動や創意工夫の共有を図るなど、垣根を越えた学び合いを加速させています。



授業検討会に複数校の教員が参加

授業レシピ

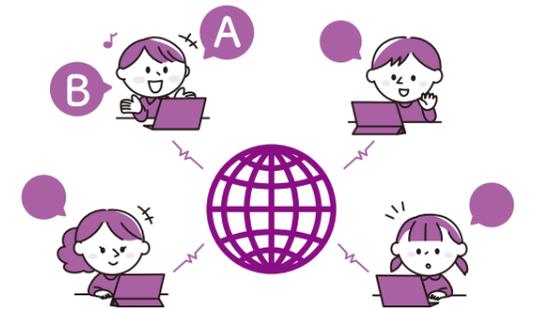
本プロジェクトにおける実践事例や他都市の先進事例などを「授業レシピ」と名付けて蓄積・共有しています。各校が、他校のレシピや教材等を参考にしながら授業づくりを進めています。



オンライン英会話（緑高校）

3 学校の特徴を 伸ばす

各校がそれぞれの特徴をさらに伸ばすため、本プロジェクトの中で、グローバル教育やキャリア教育の充実に取り組んでいます。



● 主な事業者

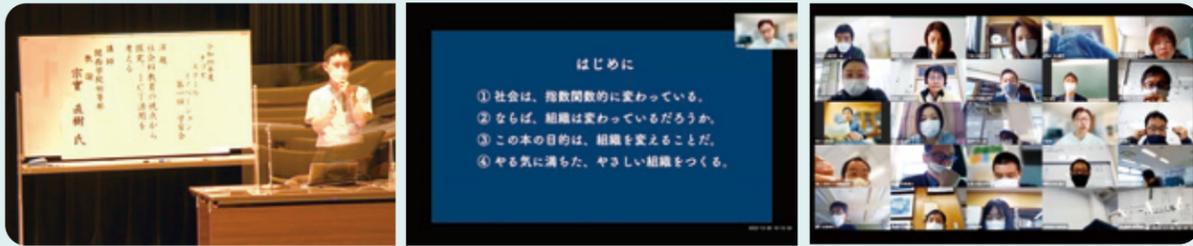


FUTUREINN

学習会

これからの学校教育では、学習者が主体となり、「みんな違う」を基本とする授業へ転換を進める必要があります。そのためには教員の意識や役割、授業のスタイルにも大きな変化が求められます。また、GIGAスクール構想の実施に伴い、学校教育における ICT 化が急速に進み、子ども一人一人の学びを保障するための効果的な ICT 活用を推進していく必要があります。

教育委員会では、学びの転換期にある教員の意識改革やスキルアップを進めていくため、すべての市立学校教員を対象とした自主参加型の「学習会」を定期的で開催し、有識者の講演やワークショップ、学校園の実践事例紹介等を実施しています。



公開授業

実践校での学びの改革の取り組みの様子を他学校園等にも知っていただくために、公開授業を行っています。市立学校園の教員や市内外の教育関係者等が参加し、実践校での取り組みを実際に見て、その後自分の学校園での取り組みに生かしています。

公開授業には校長先生から若手まで幅広い教員が多数参加し、「新しい教育へチャレンジをしていきたい」というエネルギーが会場全体に満ち溢れています。

学校園の取組紹介



授業参観



研究協議



実践者・視察研究者

市全体で学びの転換を進めていくためには、教員一人一人が日常的に授業を変えるチャレンジを積み重ねていく必要があります。市教育委員会では、教員個々のチャレンジの輪が広がるよう、新しい学びの教育実践に取り組む教員を公募・選考し、教育実践・教育研究を支える取組を行っています。

実践者

教員間で学び合いながら授業計画の検討を進め、担当する学級・教科等で授業改善の実践に取り組みます。

視察研究者

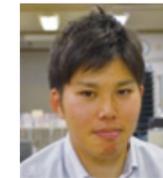
特色ある教育に関する文献調査や先進的な学校園の視察研究に取り組みます。



実践紹介や視察した学校の概要、学んだキーワードを以下に示しています。

名古屋市立赤星小学校

教諭 小神 悠揮



研究テーマと実践の紹介

「自分のペースで進める理科学習」

学級で作った複数の問題を、解きたいものから学習していくスタイルを取り入れた。一人で何度も実験を行いながら学習を進めたり、分からないところは友達と協力して解決したりする、主体的に学ぶ姿勢が身に付いた。

学びの一枚

- #何から学習しようかな
- #友達に聞いてみよう
- #自分のペースでできているな
- #次の理科もがんばりたいな



名古屋市立栄小学校

教諭 福谷 享平



研究テーマと実践の紹介

「自己選択・自己決定を大切に、主体的に学ぶ子どもの育成」

子ども自らが、課題解決を目指す体育の実践をした。学習環境づくりをしたり、子どもが主体的に学ぶ意識をもつように促したりすることで、子どもが学習内容や学習方法を自己選択・自己決定しながら学ぶことができた。

学びの一枚

- #友達と頑張ってる
- #一人で頑張ってる
- #みんな、それぞれ頑張ってる
- #やれば、できる!



名古屋市立千種中学校

教頭 宮田 基



視察した学校と概要

「広島県立広島叡智学園

中学校・高等学校」

大崎上島の自然豊かな環境で、多国籍・異年齢の生徒が寮で共に生活を送る国際バカロレア認定校。英語力を高め、プロジェクト型学習の探究を通じて世界のよりよい未来を創造するリーダーとなる人材を育てている。

視察での学び

- #学びの主役は生徒。教師はファシリテーター
- #教室はリビング。リラックスして学べる多様な学習環境
- #探究する協働型プロジェクト学習
- #農家や事業所と連携し、生徒自ら交渉するインターンシップ
- #寮生活を通して身に付く自律心



名古屋市立比良西小学校

校長 松藤 耕造



視察した学校と概要

「学校法人新渡戸文化学園

小学校・中学校」

「Happiness Creator」の育成を軸として、自立型学習者を目指している。教育コンセプトとして教科を超えた学びやプロジェクト型学習などの3Cカリキュラムを推進している。

視察での学び

- #主体的に実社会の課題に挑戦
- #実社会につながるラボ学習
- #学びを支えるチーム担任制
- #思いを実現する VIVISTOP





名古屋市教育委員会事務局
新しい学校づくり推進部 新しい学校づくり推進室

開庁時間 月曜日から金曜日
午前 8 時 45 分から午後 5 時 30 分まで
(休日・祝日・年末年始を除く)

〒461-0001 名古屋市東区泉一丁目 1-4 名古屋市教育館 8 階
TEL : 052-253-7937
URL : <https://nagoyaschoolinnovation.city.nagoya.jp/>

